

さつまいも生産者の皆様へ

ムツスジアシナガゾウムシに注意!

- 鹿児島県内では、令和5年に大隅半島において初めて確認
- 令和7年産では、鹿屋市、曾於市、志布志市、大崎町において被害確認



成虫(体長:約9mm)



- 成虫の背面は灰色地に黄色い縦筋があります。畑の周りの雑草等で越冬します。
- 成虫は、つるや葉柄を摂食し、食害を受けた葉は折れて、垂れ下がります。
- 幼虫は、つるの中で発育し、さなぎを経て羽化し、脱出孔からつるの外へ出ます。

畑をよく見回り、早期発見・早期防除に努めましょう!



さつまいもほ場では周縁部ほど被害が多く認められる。



生育初期

葉柄の食害により、葉が折れた状態になるのが特徴



生育後期



つるの膨れと内部の幼虫(上)とさなぎ(下)



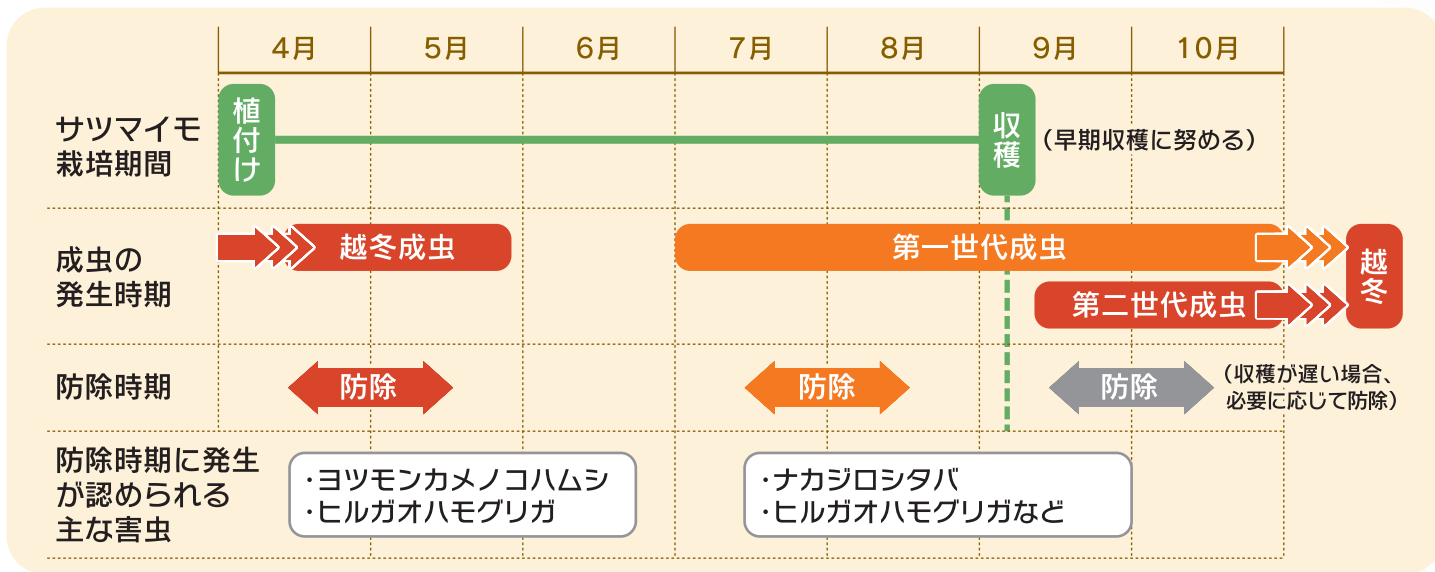
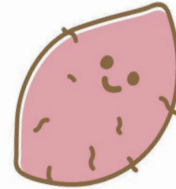
脱出孔(直径約 5mm)

激しく食害されると収量が大きく減少するので、必ず防除しましょう
(裏面参照)

さつまいも栽培における ムツスジアシナガゾウムシの防除

○防除のタイミング

- 苗の植付け後に越冬成虫が畑に侵入し、つるや葉柄を食害しながら、つるに産卵します。
- 4月上旬に植付けした畑では、**第一世代成虫が7月頃から、第二世代成虫が9月頃から発生**します。
- つるの中の幼虫への防除は効果的ではないことから、**成虫の発生時期が防除適期**です。
- ナカジロシタバやヒルガオハモグリガなどの防除を考慮した農薬を選定すると効率的です。



○さつまいも栽培でのムツスジアシナガゾウムシに使用可能な農薬

(植物防疫法第29条第1項の適用)

商品名	使用時期	使用回数	希釈倍数	適用病害虫									
				アブラムシ類	タバココナシラミ	コナシラミ類	ヨツモンカメノコハムシ	ハダニ類	ナカジロシタバ	シロイチモジヨトウ	ヒルガオハモグリガ	ハスモンヨトウ	イモコガ
グレーシア乳剤	収穫7日前まで	2回以内	2,000~3,000			○		○	○			○	
コテツフロアブル	収穫前日まで	2回以内	2,000					○				○	
			2,000~4,000			○			○				
スミチオン乳剤	収穫7日前まで	5回以内	1,000	○			○						○
ベネビアOD	収穫7日前まで	3回以内	4,000		○		○		○		○	○	

注1)登録内容:令和8年1月5日現在

注2)室内試験でサツマイモ茎、葉柄を用いた食餌浸漬法により処理96時間後まで調査し、効果の高かった農薬を適用。

なお、グレーシア乳剤、コテツフロアブルは2,000倍のみの試験のため、それ以外の希釈倍数での殺虫効果は未確認。